

マウスピースで幼児の歯列矯正

3歳児からの負担の少ない治療

お子様が3歳になりますと3歳児健診が行われますが、反対咬合を指摘される児童は年間約4～5万人（全国の3歳児の4～5%）が該当します。下の歯が前に出ていると、かみ合わせが悪くなる為にしっかり食べ物が噛み切れず、咀嚼がうまく出来ず顎の骨や脳の発達にも影響が出てしまいます。さらに息が漏れるため、発音障害がおきる場合があります。

よくご両親から聞くお話ですが、健診で反対咬合が発見され、いざ歯科医院にいくと歯科医師より「しばらく様子を見ましょう。」と言われそのまま放置するのはいかなるものなのでしょうかとお聞きします。しかし、自然に治る確率は低く（約6%）、ほとんどの場合治療が必要になります。大人になってから治療すると、治療法の選択肢が狭くなり、小学生になると頭に固定のバンド（チンキャップ）を装着したり、反対咬合がひどくなると下の顎骨を手術で切断しないと治せない場合もあります。また、何も治療せずにそのまま子供が大人になり、「なぜ両親は治してくれなかったのか？」と思われたいないようにするために、3歳からでも出来る、早期初期治療としてのムーシールドがお勧めです。

- 【特徴】
1. 短期間で正常な発育ラインにのせることが出来る。
 2. 痛くなく、通常の装置よりも不快感がない。
 3. 期間が短いのでコスト（費用）がかからない。
 4. 手術をしない。
 5. 医療用アクリル樹脂なので安全。体に害がない。
 6. 基本的に寝るときだけ使用するので楽。
 7. 鼻炎が改善され鼻通りがよくなることもある。 etc

ムーシールドは他の矯正装置と違い、歯を動かすのが主の目的ではなく、筋機能訓練が目的です。3歳からという低年齢の場合は、筋機能訓練をするだけで治る場合があるのです。よって、1年以内に約90%の人が改善します。しかし、全員すべてが改善できるわけではなく、さらに治ったとしても成長と共に後戻りが起きる場合もあります。これはどの矯正治療にも起こることですので、まずは診査・診断をしてからご説明します。ただ、何もしないで通常の矯正をスタートするよりも、一旦ムーシールドである程度改善してから通常矯正を行う方が楽に出来ます。

医療人として、何もしないで「様子を見ましょう」というのはいかなるものかと思います。ですから私は「前歯のかみ合わせを改善して様子を見ましょう」が良いと思います。

ムーシールドは特殊な装置ですので、実施している歯科医院がまだ少ないのです（全国に約100施設）。当医院はムーシールドの専門医として相談を受けることが出来ますので、一度来院してはいかがでしょうか。